

2011 年 1 月 X 日

2010 年度 卒業論文

提出年月日の年と卒論
年度は異なるので注意

名詞の動詞化について

A Study of Denominal Verbs

甲南大学文学部

英語英米文学科

1XX12XXX 甲南花子

「挿入」 > 「区切り」 >
「セクション区切り」
(セクションを区切るとページ番
号を振り直すことができます)

目次

Abstract	i
序論	1
第1章 言語の多義性	X
第2章 構造について	X
第3章 派生の条件	X
第4章 分類と分析	X
第5章 意味の理解	X
結論	X
参考文献	X

「挿入」 > 「区切り」 >
「セクション区切り」
(セクションを区切るとページ番号を振り直すことができます)



Abstract

This is the abstract page, which should be written in English. The indent for each paragraph should include 4–5 spaces, unlike in Japanese (where you use only one space for indentation).

Abstract is supposed to summarize the whole thesis. You first start with stating the topic and the research question addressed in the thesis.

Then you move on to introduce the organization of the thesis. Abstract should consist of about 250-300 words (=about one page in this format).

See the Sotsugyo Ronbunshu for actual examples.

「挿入」 > 「区切り」 >
「セクション区切り」
(セクションを区切るとページ番号を振り直すことができます)

A blue arrow points from this box down to the second box.

「挿入」 > 「ページ番号」
(ローマ数字)

A blue arrow points from this box down to the page number 'i'.

序論

どの言語においても、名詞は数多く存在する。物の名前を表すことが名詞の一般的な働きであるが、名詞の中には動詞として使うことができるものがある。英語におけるこのような動詞を脱名詞動詞という。脱名詞動詞とは、名詞が形を変えずに動詞としての意味を持っているものである。英語にはこのような脱名詞動詞が数多く存在し、英語を母国語とする人は会話や日常生活の中で自然にこの脱名詞動詞を使用している。驚くべきことに、人々はかつて一度も聞いたことがない表現であってもその意味を理解することができ、また新しい動詞を作り出すことも可能であるという。なぜそのようなことができるのだろうか。

これらの表現が特定の場合においてどのような意味になるかを判断するためには、適切な文脈が必要であると Clark & Clark (1979) は述べている。つまり、その部分の意味だけではなく、その表現が使われた時・場所・状況についても知っておかなければならないのである。また、解釈にあたって話し手と聞き手が共通して持っている知識が必要な場合もあり、話し手がその動詞を発する際には、聞き手がその知識を持っているということを確信していなければならない。

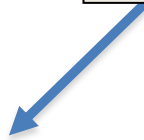
それでは、この語用論的な要素だけでいつも正しい意味にたどり着けるのだろうか。そうだとすれば脱名詞動詞の意味は無限になってしまうので、名詞から動詞への転換には何か規則が存在しているのではないだろうか。そもそも脱名詞動詞は何のために作り出され、使用されるのだろうか。

これらの疑問を解決するために、脱名詞動詞について考察している。第1章で、Clark & Clark (1979) による脱名詞動詞の分類について説明する。第2章では脱名詞動詞が実際に使用されている例を検証し、それ

「挿入」>「ページ番号」
(アラビア数字／1から振り直す)

それぞれのタイプの使用状況と動詞の生産性について言及する。第3章では脱名詞動詞の概念構造を分析し、脱名詞動詞の本質について考えていく。

「挿入」＞「区切り」＞
「改ページ」
（「卒論集」とは違い、実際の卒
論では章ごとに改ページします）



第 1 章 脱名詞動詞

1.1 脱名詞動詞の分類基準

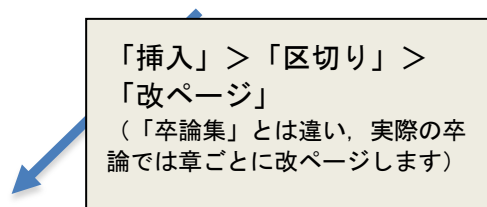
ここでは脱名詞動詞の分類基準について概観する。

1.2.1 Locatum verb

動詞化される名詞にはどのようなものがあるのだろうか。動詞化される名詞には様々な種類のものがあるが、その中からまず **locatum verb** について見ていくことにする。**locatum verb** とは、元になる名詞が示す物と、それに関連している他の物の位置を示すものである。

(1) Jane **blanketed the bed**. (ベッドに毛布をかける)

(1)の文では移動物である **blanket** が動詞として使われ、移動先の **bed** が **goal** になっている。このように移動物が動詞として使われるものが **locatum verb** である。この **locatum verb** はさらに所格の前置詞によって分類される。例えば、(1)では **blankets are on the bed**. ということを示しているので所格の前置詞は **on** である。Clark and Clark (1979) は以下のような分類を挙げている。



第2章 脱名詞化しない名詞の種類について

本章では主に脱名詞化しない名詞の傾向について意味論的観点から分析する。…

…

参考文献

- Clark, Eve V. and Clark, Hervert H. 1979. "When Nouns Surface As Verbs."
Language 55: 767-811.
- Pustejovsky, James. 1995. *The Generative Lexicon*. The MIT Press, Cambridge,
MA.
- 影山太郎. 1999. 『形態論と意味』 くろしお出版、東京.
- 金田一春彦. 1950. 「国語動詞の一分類」 『言語研究』 15: 48-63.
- ピンカー、スティーブン（著） 棕田直子（訳）. 1995. 『言語を生み出す本能
（上・下）』 日本放送出版協会、東京.